

外為マンスリーレビューI 北米編

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2016/05/02

円高どこまで？

通貨ペア	基調		ページ数
<u>ドル/円</u>	➡	日銀ショックの余韻を引きずる 予想レンジ: 102.500~ 111.000円	2-3
<u>カナダ/円</u>	➡	原油と円相場に注目 予想レンジ: 80.500~88.400円	4-5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



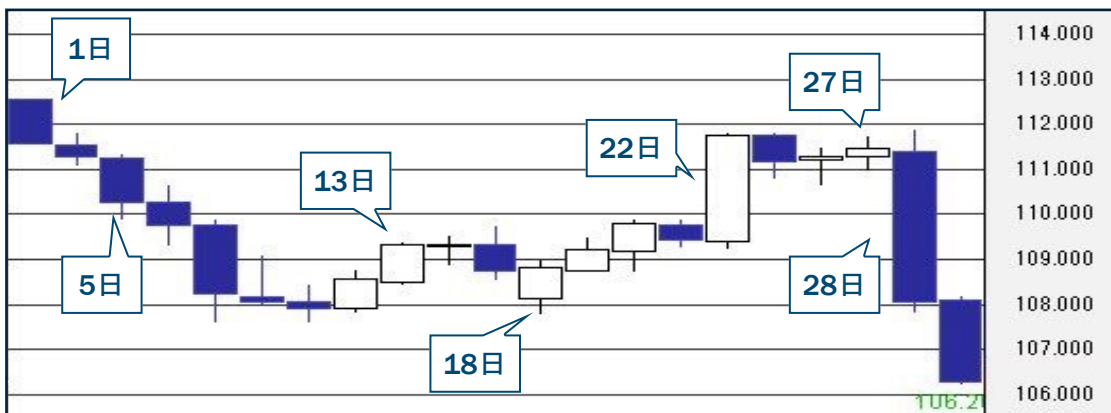
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD/JPY

ドル/円 4月の推移

4月のドル/円相場は106.269～112.579円のレンジで推移。月間の終値ベースでは5.6%の下落(ドル安・円高)となった。28日、29日の両日だけで5円超下落するなど、日銀の追加緩和見送りによる円高進行が大きく響いた格好となった。上旬は、強い雇用統計にもかかわらず107円台までドルが売られるなど下落基調を強めたが、中旬は原油相場の持ち直しなどによってリスク回避ムードが後退した事から下げ渋った。下旬には、日銀の追加緩和への期待が膨らむ中、一時111円台に値を戻したが、米連邦公開市場委員会(FOMC)と日銀金融政策決定会合を経てドル売り・円買いが再燃。本邦祝日の29日には106.269円まで下落して約1年半ぶりの安値を付けた。



四本値	
OPEN	112.561
HIGH	112.579
LOW	106.269
CLOSE	106.301

1日	3月日銀短観で大企業製造業業況判断DIが6にとどまり12月の12や事前予想の8を下回ると日本株の下落につれて円高が進行。また、米3月雇用統計は非農業部門雇用者数が21.5万人増、失業率が5.0%、平均時給は前月比+0.3%となり(予想:20.5万人増、4.9%、+0.2%)、米3月ISM製造業景況指数も51.8と(予想:51.0)、比較的良好な経済指標の結果が続いたが、いずれも米利上げのペースアップに繋がるほどの強さではないとの見方からドルの上値は限定的であった。その後は、原油安の影響もあって米長期金利が上げ幅をほぼ失う中、ドル売りが強まった。
5日	安倍首相が米紙とのインタビューで「通貨安競争は絶対避けなければならない」「恣意的な為替市場への介入は慎まなければならない」などと述べた事が伝わると、円売り介入への警戒感が薄れ投機的な円買いが活発化。一時110円台を割り込んで下落した。
13日	中国3月貿易収支で輸出が前年比+11.5%の増加となった事を受けてリスク選好の円安が進行。その後、米3月小売売上高が前月比-0.3%と予想(+0.1%)に反して減少すると一時ドル売りが強まったが、小売売上高の減少を受けて米利上げ観測が後退するとNYダウ平均が18000ドルの大台に迫るなど米国株が上昇した。これを眺めてリスク選好の円安が再開し109.40円前後まで上昇した。
18日	前週末のG20終了後(日本時間16日午前7時過ぎ)に、ルー米財務長官が「最近の円高にも関わらず為替市場は穏やか」「日本は外需だけでなく内需に目を向ける必要」などと発言して日本の円売り介入に否定的な見解を示した事に加え、17日の産油国会合で増産凍結交渉が決裂した事から原油価格が急落する中でオセアニア・アジア市場では円買いが優勢となった。しかし、欧米市場に入ると原油価格が下げ渋り、株価が堅調に推移。NY原油先物が40ドル台を、NYダウ平均が18000ドル台をそれぞれ回復して反発すると109円台目前まで反発した。
22日	一部通信社が、日銀関係者の話として「日銀は金融機関への貸出しにマイナス金利を適用する事を検討している」と報じると日銀金融政策決定会合での追加緩和期待が膨らみ短期筋のストップスを巻き込みながら大幅に円安が進行した。
27日	米FOMCは、その声明から「世界経済と金融動向は引き続きリスクをもたらす」の文言を削除して6月の利上げに含みを持たせたが、足元の景気判断については「成長減速の兆候がある中でも、労働市場は改善した」としてやや下方修正した。
28日	日銀が大方の予想に反して金融政策の現状維持を発表すると失望の株安・円高を誘い、日経平均株価が600円超下落するとともに3円超のドル安・円高が進んだ。なお、黒田日銀総裁が「(観測報道にあった)マイナス金利での貸出しは議論しなかった」などと発言した事もあって、会見後に一時108円台を割り込んだ。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

USD/JPY

米2年債利回

OPEN	0.7250%
HIGH	0.8747%
LOW	0.6838%
CLOSE	0.7816%

米10年債利回

OPEN	1.7687%
HIGH	1.9396%
LOW	1.6837%
CLOSE	1.8333%

日経平均

OPEN	16719.56
HIGH	17613.56
LOW	15471.80
CLOSE	16666.05

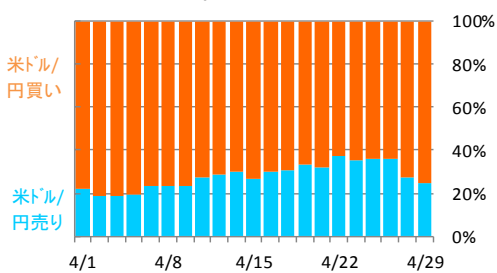
NYダウ平均

OPEN	17661.74
HIGH	18167.63
LOW	17484.23
CLOSE	17773.64

4月のポジション動向

5月の日・米注目イベント

米ドル/円ポジション指数



- ・4月米ISM製造業景況指数(2日)
- ・4月米住宅着工件数(17日)
- ・4月米ADP全国雇用者数(4日)
- ・4月米鉱工業生産(17日)
- ・3月米貿易収支(4日)
- ・1-3月期日本GDP・一次速報(18日)
- ・4月米ISM非製造業景況指数(4日)
- ・4月日本貿易収支(23日)
- ・4月米雇用統計(6日)
- ・4月米耐久財受注(26日)
- ・3月日本経常収支/貿易収支(12日)
- ・伊勢・志摩G7サミット(26-27日)
- ・4月米小売売上高(13日)
- ・4月日本消費者物価指数(27日)
- ・4月米生産者物価指数(13日)
- ・1-3月期米GDP・改定値(27日)
- ・4月米消費者物価指数(17日)
- ・5月米消費者信頼感指数(31日)
- ・4月米個人消費支出(31日)

5月の見通し

月間指標カレンダー(外部リンク)

先月末に再燃したドル安・円高圧力がどこまで高まるかが5月相場の最大の焦点となろう。ドル/円相場は2日午前の時点で106円台前半で推移しており、本邦金融当局の円売り介入が意識されてしかるべき水準まで下落している。ただ、米財務省は先月29日に発表した為替報告書で「最近のドル/円相場は秩序的だ」と指摘(また、日本を対米貿易黒字が大きい国として中国や独とともに「監視リスト」に入れた)しており、そうした中で本邦当局が実際に円売り介入に踏み切れるかは不透明と言わざるを得ない。それを見越して投機筋の円買いが活発化するリスクがあり、ドル/円は105円台を割り込む可能性を意識しておく必要がある。もっとも、3カ月で15円というハイスピードで進んだドル安・円高を、安倍政権がこのまま見過ごすとも思えない。7月の参院選に向けて円高・株安対策を講じてくる可能性は十分にある。その一環として2017年4月に予定されている消費増税の再延期が月内に発表される可能性もあろう。今月26・27日に伊勢・志摩で行われるG7首脳会議が近付けば投機筋は円買いに動きにくくなると見られ、ゴールデンウィーク明けの中旬以降はドル高・円安に振れる場面もありそうだ。(神田)

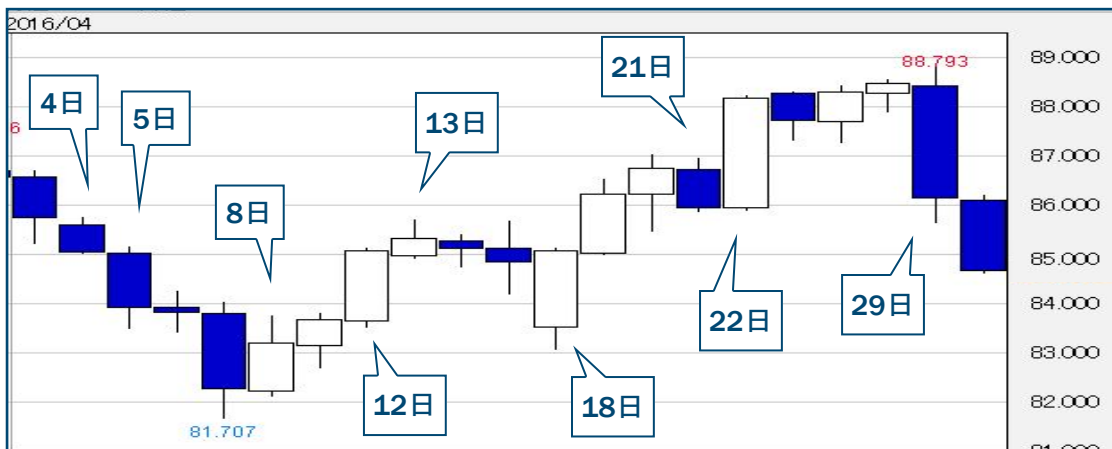
(予想レンジ: 102.500~111.000円)

カナダ/円 4月の推移

CAD/JPY

4月のカナダ/円相場は81.707～88.793円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約2.2%の下落（カナダドル安・円高）となった。

NY原油先物が軟調に推移する中、カナダ/円は7日に81.707円まで下落。その後は原油相場が反発した事や、日銀の追加金融緩和期待を高める報道を受けて円が売られた事から、28日に88.793円まで反発したが、日銀金融政策決定会合後に円買いが強まると30日に84円台に急落するなど、円と原油の動きに左右された。



四本値

OPEN	86.580
HIGH	88.793
LOW	81.707
CLOSE	84.698

4日	イランのザンギャネ石油相が石油生産や輸出を拡大する意向を示すと、17日に行われる産油国による増産凍結協議での合意が困難との見方からNY原油先物が下落。カナダ/円は85.00円台まで下落した。
5日	安倍首相が「競争的な通貨安は避けなければならない」「独善的な為替介入は控える必要」などと述べた事を受けて円全面高となると、カナダ/円は83.521円まで下落した。
8日	加3月雇用統計は、失業率が7.1%、新規雇用者数は4.06万人増と予想（7.3%、1.00万人増）より強い結果となった。これを受け、カナダ/円は83.70円台まで上昇した。
12日	「サウジアラビアとロシアが増産凍結で合意」との一部報道を受けてNY原油先物が急騰すると、カナダ/円は85.10円台まで上昇した。
13日	加中銀（BOC）は政策金利の据え置き（0.50%）を決定。声明で「世界的な成長鈍化のほか、軟調な米経済見通し、企業投資の鈍化を受け、政府の財政刺激策がなければカナダ経済の見通しは悪化していた」「インフレ動向を巡るリスクは概ね均衡している」との認識を示した。また、経済成長見通しについては2016年を1月時点の+1.4%から+1.7%に引き上げたが、2017年については+2.4%から+2.3%に引き下げた。カナダ/円は一時85.709円まで上昇した。
18日	15日のG20財務相・中銀総裁会議後、ルー米財務長官が「最近の円高にも関わらず為替市場は穏やか」などと発言し、政府・日銀による円売り介入警戒感が薄れた事や、17日にドーハで行われた産油国会合で増産凍結で合意できなかったため時間外のNY原油先物が急落した事から、カナダ/円は83.10円前後まで急落。しかし、その後は原油相場の反発基調継続を受けてNYダウ平均が上昇するとリスク選好ムードが広がり、85.10円前後まで急反発した。
21日	「石油輸出国機構（OPEC）加盟国のリビアが数週間以内に原油生産量を倍増する可能性がある」との報道を受けてNY原油先物が下落すると、NYダウ平均が軟調に推移。カナダ/円は85.898円まで下落した。
22日	「日銀が民間銀行への貸出にマイナス金利適用を検討」との報道を受けて円売りが活発化すると、カナダ/円は88.20円前後まで上昇した。NYダウ平均が18000ドルを回復した事も追い風となった。
28日	緩和期待が高まる中、日銀が金融政策の現状維持を決定すると円買いが強まり、カナダ/円は85.656円まで急落した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

加10年債利回り

OPEN	1.248%
HIGH	1.578%
LOW	1.158%
CLOSE	1.513%

N Y 原油

OPEN	38.14
HIGH	46.78
LOW	35.24
CLOSE	45.92

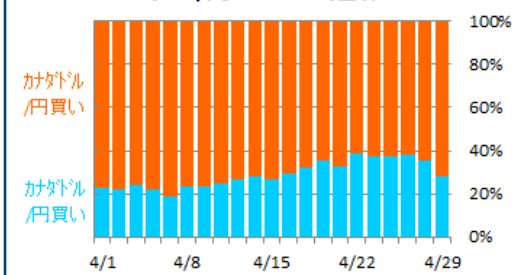
NYダウ平均

OPEN	17661.74
HIGH	18167.63
LOW	17484.23
CLOSE	17773.64

4月のポジション動向

5月のカナダの注目イベント

カナダ/円ポジション指数



- ・4月加雇用統計(6日)
- ・4月加住宅着工件数(9日)
- ・4月加消費者物価指数(20日)
- ・3月加小売売上高(20日)
- ・BOC政策金利発表(25日)
- ・3月・1-3月期加GDP(31日)

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

5月の見通し

5月のカナダ/円相場は、先月に続いて原油相場と円相場を睨んだ展開となりそうだ。NY原油先物は産油国会合での協議不調後に下押しも一時的となり、その後2014年8月に下抜けて以降初めて52週移動平均線を突破した事で、上昇局面に入った可能性がある。原油が主力輸出品であるカナダにとって、原油高は好材料である。ただ、6月2日に予定されている石油輸出国機構(OPEC)総会を前に増産凍結に踏み切れるかは依然として不透明で、原油相場にとってリスク材料である。関連報道に引き続き注意が必要だろう。

また、先月末の日銀金融政策決定会合以降、円買いが急速に強まっている。円高が加速する場面ではカナダ/円相場に下落圧力が掛かる可能性が高い。ただし、本邦当局者から円売り介入を示唆する強い円高けん制発言が相次げば円高の動きが一服する事も考えられるため、要人発言に要注意である。

なお、今月の加中銀政策金利発表について、原油相場が堅調に推移している事や、カナダ政府が3月に発表した景気刺激策によるGDP押し上げ効果が期待されている事から、現在の金融政策を維持する可能性が高いだろう。声明も前回に続いて大きな変更があるとは考えにくく、無風通過もあると見る。(川畑)

(予想レンジ: 80.500~88.400円)